

催吐リスク Moderate

腸 (BEV7.5+L-OHP130)d1+cape/d1-14)c21d

薬剤名	投与経路	投与量	希釈液	点滴時間 (分)	投与日(day)
カペシタビン	経口		mg		1-14
			mg		
パロノセトロン	注射	0.75	mg		1
デキサメタゾン	注射	6.6	mg	生食 100 mL	30 1
アバスチン		7.5	mg/kg	生食 100 mL	15 1
エルプラット		130	mg/m <sup>2</sup>	5%糖液 250 mL	120 1
				mL	
				mL	
				mL	

## 内服薬

デキサメタゾン 8mg 分2 朝昼食後 day2,3,4

## 投与基準等

Ⅱ. 投与基準 (例:白血球 $\geq 2000/mm^3$ 、好中球 $\geq 1000/mm^3$ )好中球数 $\geq 1,500$ 、血小板数 $\geq 75,000$ 、下痢・口内炎 $\leq$  Grade 1

## Ⅲ. 減量基準 (例: Grade3 以上の好中球減少時、次回より投与量を80%に減量)

【非血液毒性】(末梢神経障害およびアバステン関連毒性を除く)

投与基準	発現グレード	発現回数	エルブラット	ゼローダ	アバステン
Grade2 以上で全て休薬 Grade1に軽快後、右の 基準に従って再開	Grade 2	1	変更なし	変更なし	変更なし
		2		減量段階 1	
		3		減量段階 2	
	Grade 3	1	100mg/m <sup>2</sup>	減量段階 1	変更なし
		2	85mg/m <sup>2</sup>	減量段階 2	
	Grade 4	1	中止 or 85mg/m <sup>2</sup>	中止 or 減量段階 2	中止 or 変更なし

【血液毒性】 Grade2 については投与量変更なし、Grade3 以上は【非血液毒性】の基準に準ずる

【末梢神経障害】 Grade3 発現 1 回目: エルブラット 100mg/m<sup>2</sup>、2 回目 85mg/m<sup>2</sup>に減量、Grade4 で中止

ゼローダ減量時の投与量(1 回用量)

体表面積	減量段階 1	減量段階 2
~ < 1.41 m <sup>2</sup>	900mg(3 錠)	600mg(2 錠)
1.41 m <sup>2</sup> ≤ ~ < 1.51 m <sup>2</sup>	1200mg(4 錠)	
1.51 m <sup>2</sup> ≤ ~ < 1.81 m <sup>2</sup>		1500mg(5 錠)
1.81 m <sup>2</sup> ≤ ~ < 2.11 m <sup>2</sup>	1200mg(4 錠)	
2.11 m <sup>2</sup> ≤ ~		

## Ⅳ. 重大な副作用 (例: 好中球減少 Grade3 以上37.5%)

国内第 I / II 相試験: JO19380 (Grade3 以上)

神経毒性	17.2%	好中球減少	15.5%
血小板減少	6.9%	高血圧	5.2%
下痢	3.4%	手足症候群	1.7%
蛋白尿	1.7%	肺動脈血栓症	1.7%

添付参考資料(文献・ガイドライン・治験計画書・研究計画書)